



大豆・麦の生育と管理

令和6年11月号
宇佐市農政課 / 大分県北部振興局集落営農・水田畑地化第一班

大豆 収穫時のポイント

HPからも見れます！
(毎月1日更新)

◎汚損粒対策

大豆は規格外になると、数量払の対象になりません。規格外の原因の一つは汚損粒です。汚損粒は、収穫時の土や雑草等による汚れが原因になります。次の4つのポイントを徹底し、丁寧な収穫作業を心がけてください。

①収穫前に青立ち株や雑草の抜き取りの徹底

ヒユやホオズキ等の雑草や青立ち株は、汚損粒の原因になります。収穫前に必ず手取り除草を行い、ほ場の外へ持ち出してください。



ヒユ科雑草（ノゲイトウ）

②大豆の収穫適期～手で折るとポキッと折れる状態～

収穫適期の目安は、茎が灰黒色になり、莢を振るとカラカラと音が鳴り、地際部の茎が手でポキッと折れる時期です。そのときの茎水分は50%以下、子実水分18%以下となっています。収穫時期が早いと茎汁等による汚損粒や損傷粒が発生するので注意してください。



ホオズキ

③収穫は露がない時間に！

前日が雨の場合は収穫を控えましょう。朝露や夜露は汚損粒の原因となります。露のない11時～16時に収穫しましょう。

④土の掻き込みに注意

土の掻き込みは汚損粒を発生させます。刈取り高さの目安10cm以上を必ず守って下さい。土を掻き込んだ場合には、すぐに清掃してください。

麦 ほ場準備

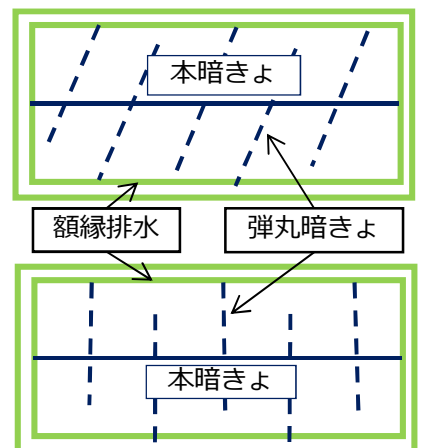
◎排水対策 排水不良による湿害は、収量低下の要因になります。適期作業を行うためにも、排水対策を徹底してください！

弾丸暗きよ 約5mおきに深さ30cmで施工し、排水を改善します。また、弾丸暗きよを額縁排水溝につなぐことで排水効果が高まります。さらに、シートパイプや本暗きよ施行田では、弾丸暗きよを交差するように施工することで排水能力がさらに高まります。

額縁排水 圃場の額縁に溝を施行することで表面排水が良好になります。排水溝は水の落とし口に必ずつないでください。

◎播種直前に耕起 耕起後すぐに降雨があると圃場が乾きにくく、播種適期を逃します。適期播種のため、播種直前に耕起しましょう。

◎種子消毒～斑葉病と黒穂病の防除～ 斑葉病、裸黒穂病は種子伝染性病害です。斑葉病では株の枯死、裸黒穂病は品質・収量低下をまねきますので、必ず種子消毒を行いましょう。



麦種	薬剤	適用病害虫名	使用量
大麦・裸麦	トリフミン水和剤	網斑病、斑葉病、裸黒穂病、なまぐさ黒穂病	乾燥種子重量の1kg当たり5g
小麦	ベンレートTコート	斑葉病、条斑病、裸黒穂病、なまぐさ黒穂病	

※ラベル等をよく読んで使用しましょう

裏面へ

麦

◎土づくり 酸度矯正 ～土壤診断で適切なpHに矯正～

麦は酸性土壌では、生育不良や黄化症状が発生しやすく収量が低下します。

最適なpH6.0～6.5にするために土壤診断を行い、苦土石灰等の土壤改良材を施用して適切な酸度矯正を行ってください。

《粘質～壤質土壌の資材施用量（10aあたり）目標pH:6.0～6.5》

資材名	土壌のpH		
	<4.5	<5.0	<5.5
苦土石灰	240 kg	140 kg	70 kg

※土壤診断により石灰質資材の投入量が300kg/10a以上になった場合は、数年に分けて施用しましょう。

◎施肥 《施肥基準（10aあたり）》

	基肥		分げつ肥	穂肥	実肥
	化成肥料14-14-14	麦一発 エムコート556	化学肥料 16-0-16		硫安
ニシノホシ ハルアカネ		45 kg			
チクゴイズミ	40 kg		15 kg	15 kg	
はるみずき	40 kg		15 kg	30 kg	30 kg ※

※はるみずきの実肥は、尿素6kg/水100L・10aを葉面散布でも可。葉面散布の場合は開花最盛期とその7～10日後の2回散布を行う（1回ではタンパクが十分に上がらない。赤カビ病防除薬剤と混用可）。

④ 有機物（完熟牛ふん堆肥等）を投入するときは周辺に配慮し、なるべく早くすき込みましょう。

はるみずきはタンパク含有率の確保に努めてください！

パン用小麦（はるみずき）はタンパク含有率を安定的に確保することが求められます。タンパク含有率の目標は**13.5%以上**です。追肥量、追肥時期に注意して管理しましょう。穂肥・実肥はタンパク向上に大きく影響しますので、必ず施用してください。

◎播種 麦の最適播種時期は11月中下旬（11月20～25日）です。収量確保のため適期播種に努めましょう。播種の深さは3cm程度が基本です。

極端な早播きは茎立ちが早くなるため凍霜害を受けやすく、小麦の萎縮病や二条大麦の縞萎縮病のウイルス病発生も助長します。遅播きは穂数が確保しにくくなり、収量の低下につながります。

《10aあたり播種量》 （11月中下旬）

条播	小麦・大麦	6～8 kg
	裸麦	5～7 kg
全面播	小麦	6～8 kg
	裸麦	8～10 kg

◎雑草対策 ～播種直後と生育期の体系防除～

雑草対策は初期除草剤、生育期除草剤、土入れの体系防除を徹底しましょう。

薬剤名	使用時期	10aあたり使用量		使用方法
		薬量	希釈水量	
ラウンドアップ マックスロード	耕起前または播種前まで （雑草生育期）	200～500 mL	50～100 L	雑草茎葉散布
キックボクサー 細粒剤F	播種後出芽前 （雑草発生前）	3～4 kg ※砂土での使用はさける	—	全面土壌散布
リベレーター フロアブル	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草1葉期まで）	60～80 mL ※麦に対して白斑症状を引き起こす場合があります	100 L	雑草茎葉散布 または 全面土壌散布

農業情報メール配信の登録募集！

～米・麦・大豆の栽培管理情報をいち早くキャッチしよう！～

★登録方法★ 配信受付メールアドレス syuraku-hokubu@pref.oita.jp

件名または本文に〇〇市 氏名を記入して、配信受付メールアドレスにメールを送信してください。差出人のメールアドレスに農業情報を配信します。